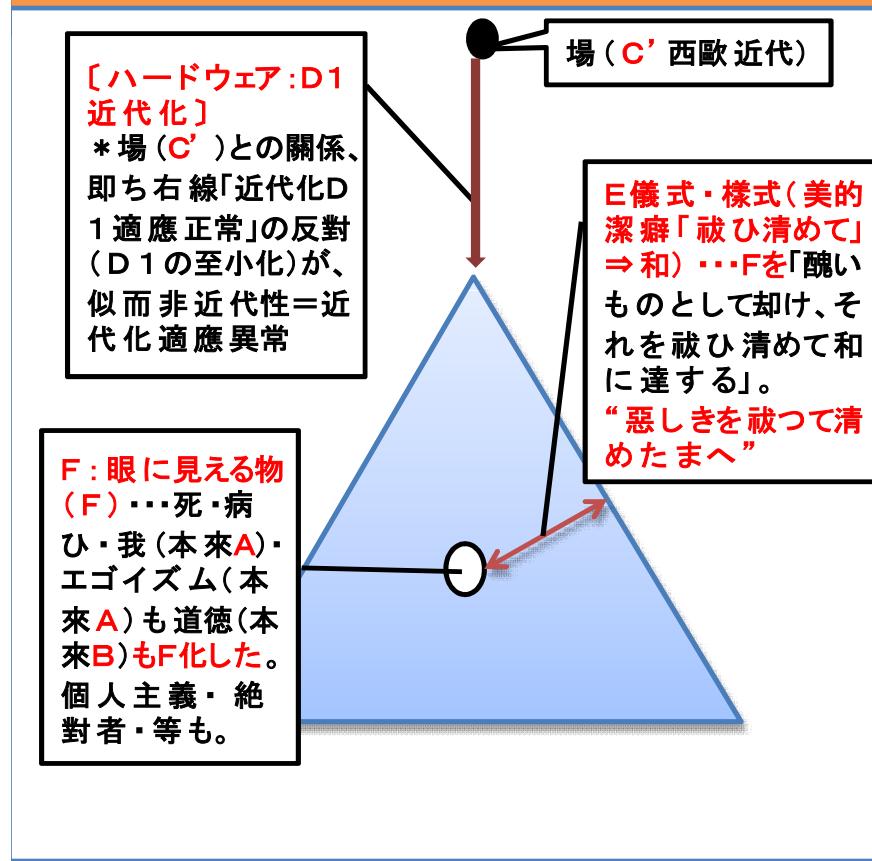


*「現代日本人の非倫理的性格」(P78『個人と社会』)の理由・・・日本文化(D1)の衰退=型(E:美感・美的潔癖・美意識)の摩耗。それに打撃を與へた「相対主義の泥沼」。即ち、「日本人は封建時代に、現實的な絶對者をもつてゐました。それが明治になつてから天皇制に切りかへられた。そして戦後はさういふ絶對者を一氣に投げ捨ててしまつたのです。現在の私たちは單純な相対主義の泥沼のなかにある(『日本および日本人』P198)」。



[「Eの至大化」=「D1の至大化」理論の『日本および日本人』への適用]…

* P181「私たちの祖先は、死や病ひと同様に、我(A)を、エゴイズム(A)を、このうへない醜いものとして却けてきたのであります。死や病ひを醜いものとして却け、それを祓ひ清めること(儀式E)によつて、その支配下から脱するといふ態度からは、いかなる科學(實證精神:A'⇒A)も發達しなかつたのですが、同様に、エゴイズム(A)を醜しとして却け、それを祓ひ清めて和に達する(儀式E:美的潔癖⇒和)といふ態度(非實證精神・非客體化的行爲:NOT「A'⇒A」)から、道徳(B)の問題も、社會(A'⇒A:客體化)の問題も發生する餘地はありませんでした(⇒近代化適應異常)。私たちの祖先にとつて、道徳(B)も、そのもとにあらべての人間關係(D1)も、けつして精神(B)の問題ではなく、眼に見える物(F)の問題であり、儀式(E)によつて律しうる形(E)の問題(FはEの至大化、「祓ひ清めの様式」で片附ける。相對的處理の問題)だつたのです」(『日本および日本人』(全三P181))。

[即ち、「祓ひ清めて和に達する(儀式E:美的潔癖⇒和)」からは道徳の問題B⇒Cは發生しないと言ふ事]⇒即ち倫理・道義の缺如]